

別府ツーリズムバレー構想推進協議会 令和6年度第1回総会

【開催日時】 2024年5月22日(水) 13:30~15:00

【開催場所】 別府市男女共同参画センター「あす・べっぴ」2階 研修室

【参加者】

○委員(13名(うち2名代理))

太神 みどり、神野 康弘、倉原 浩志、末崎 博樹、関谷 忠、千壽 智明、中野 和宜、
永松 秀基、中村 恭子、橋本 栄子、宮脇 恵理
(代理) 高橋 和久 (大分みらい信用金庫)、竹林 誠悟 (立命館アジア太平洋大学)

○事務局等 別府市観光・産業部長、産業政策課長 外4名

【新任委員紹介】 中野委員

【会長あいさつ】 関谷会長

【議事概要】

(1) 第1号議案「令和5年度事業報告について」

<別府ツーリズムバレー構想推進協議会の活動の報告>

・総会：2回、専門部会（金融部会、スタートアップ支援・人財育成部会）の開催

<別府ツーリズムバレー構想に関連する別府市、及び、B-biz LINKの取り組みの報告>

《委員より質疑・意見》

・事業実施報告だけではなく、具体的な成果まで報告に組み入れてくれると事業が見える化されてよいと思う。

・各委員、承認

(2) 第2号議案「令和5年度別府ツーリズムバレー構想推進協議会 収支決算書」

《事務局長より説明》

《監事より会計監査報告》

・各委員、承認

(3) 第3号議案「令和6年度取組（案）について」及び第4号議案「令和6年度 別府ツーリズムバレー構想推進協議会 収支予算（案）」

《事務局長より一括説明》

・各委員、承認

(4) 意見交換

・インバウンドが一気に戻ってきているが、言葉の問題もあるし、プロモーションを強化するにしても、各国・地域でやり方が異なる。それをB-biz LINKやWANDER COMPASS BEPPUの力を借り、役割分担しながら実行するという方法が見えてきたかなと思う。

- ・今年度、経済産業省事業として国での女性起業家支援事業が実施される。九州ブロックでの第1回ビジネスプラン発表会が別府市内で開催される予定。女性起業家支援スタートの地として一緒に盛り上げていただければうれしい。
- ・創業系の支援補助金は国・県・市とも必要な書類は、ほぼ同じ。書類が整えば補助規模の大きい国・県へ応募する人が多くなる。国・県が採択しなかった創業者を市が拾い上げるような役割分担を考えてみてほしい。
- ・B-biz LINK はいろんな専門機関が実施している支援の情報を集めて分析し、足りない部分に介入しようと機能的な動きを始めている様子が見える。ハブとしてうまく機能してほしい。
- ・ビジネスプランコンテストもファイナリストになれるのは全応募の2割ほど。8割の起業プランへは支援が十分に行き届かない状況とも言える。その8割の起業家をなんとかしたい。
- ・金融機関としても、事業アイデア程度の初期段階から見ていると、その人のステージ・進化・必要なものが見えやすく、よい支援が可能になる。積極的に金融機関へ紹介してほしい。起業という入口だけでなく、長く続く事業となるためにも、事業の早い段階から末永く伴走支援を行いたい。
- ・留学生のうち、3分の1が日本での就職を希望し、3分の1が大学院や国際機関への就職を希望、残りの3分の1が母国や第三国での就業を希望している。留学生はキャリアアップ志向が強い。しかし、留学生・日本人学生ともに3年生になって進路について考え始めて、一般消費者対象の企業やCMを流している企業など知名度のある企業への就職活動を始める傾向にあるが、企業の9割は企業間取引を業務としている。インターンシップで仕事の内容やキャリアプランを考えて就職につなげるということが必要と感じるし、学生もインターンシップに興味を持っている。
- ・留学生への調査でも、キャリアアップが図れるところへの就職を希望していて必ずしも大都市での就職を望んでいないことが分かる。留学生の有償インターンシップへの助成制度があり、昨年度、県内でも10数件インターンシップから採用に至っている。ぜひ、別府の事業者も助成制度を活用し、留学生に広く門戸を開いてほしい。
- ・別府には1か月以上のインターンシップを受け入れるという事業者もいる。そういった情報交換を密にし、市やB-biz LINK がハブとなって必要なところへつないでほしい。
- ・10年前、ビジネス関係の相談会は1件30分1回で完結していたが、今は120分の相談が複数回必要となるのが普通。支援のための大きなマンパワーが必要。諸機関が相談会を実施しており、それらが連携し大きなマスを作る必要がある。役割分担としてB-biz LINK にはそのハブとなってほしい。
- ・人手が足りないという実感がある。仕事が完結してお客様に届くまでに時間がかかる。外注業務がなかなかきれいな形で返ってこないことに、人手が足りず、人財を教育する余裕もないのかとも感じる。
- ・自分の人生に合わせた働き方をしたいという従業員が増えていて、どうすれば長く働いてもらえるのか模索中。起業も大切だが、中小企業の雇用・働き方の可能性についても考えてもらえるとうれしい。

- ・事業を承継し、先代時代からの従業員も承継した。現在は人的部分で困ってはいないが、5年後、10年後を考えると、人財の育成は必要と感じる。経営者と同じ目線で考えることができる従業員をどう確保・育成するのか悩ましい。

【閉会】